



プロジェクト名称

すみだの'巣'づくりプロジェクト

プロジェクト活動概要

東京都墨田区で、総合的なまちづくり、という意味をもつ「防災もまちづくり」の実現のために、防災という共通課題をきっかけに専門家やNPO、行政、地域住民、企業などが学生を介してつなぎ、最終的に「学生が広げた輪（ネットワーク）から地域が繋がり続ける」ことを目標に掲げ、活動を行っています。

プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① Twitter、Instagram の投稿をそれぞれ 40 個
- ② 防災遠足の参加者数において、子供 30 人、おとな 50 人
- ③ YouTube の動画投稿を 6 本

① 11 月以降のインスタグラムの投稿としては、正月の新年の挨拶の投稿と、イベントにボランティアとして参加した際の報告の投稿の二つのみ投稿しました。通年として 40 個の投稿にはとどきませんでした。

② 今年の防災遠足は 3 年ぶりに対面開催をすることができました。防災遠足の参加者は子供が 16 人、大人 52 人の計 68 人に参加していただきました。参加者数でみると大人は目標人数を達成することができました。

③ YouTube の動画投稿は 0 でした。YouTube の投稿はその他 SNS と比べて準備期間がながいため、今後は取り組み方法を変えて挑戦したいと思います。

SDGs への取り組み

《SDGs との関連項目》



「4 質の高い教育をみんなに」に関する取り組みとして、カエルキャラバンの防災図鑑の作成に関わり、小学生に正しい防災知識を提供しました。

「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」に関する取り組みとして、実際に墨田区内を歩き、水害が発生した際どのように行動したらよいかの案を出し合いました。

「11 住み続けられるまちづくりを」に関する取り組みとして、メンバー内で災害が発生した時、どこ



がどのような被害を受けるのかを話し合い、被害を抑えるためにどのような方法があるかをまとめました。

「12 つくる責任 つかう責任」に関する取り組みとして、普段の会議などが出る成果物は基本的にデータで共有し、ペーパーレスに取り組みました。

「13 気候変動に具体的な対策を」に関する取り組みとして、現地へ赴く際はなるべく電車やバスを利用するようにしました。

活動状況報告 & 活動写真 活動期間：2022年11月1日～2023年2月28日

〇カエルキャラバン(12月実施)

カエルキャラバンとは、小学生の子供を対象とした全国で行われている防災イベントです。墨田区でもほぼ毎年開催されており、今年度も開催され私たちが参加させていただきました。今年度のテーマは「防災図鑑」ということで、私たちを含めたいくつかの団体で小学生むけの防災図鑑を作成しました。私たちは、地震や水害に着目し、小学生がいざという時、大人の力を借りずに一人で行動することができるためには、何を知っていてほしいか、ということを中心に考えて図鑑を作成しました。テーマを大きく3つに分け、「地震が発生したときの行動」「二次災害が起きた時の行動」「二次災害の対策」について説明しました。

イザ！カエルキャラバン！in一寺言問2022「防災図鑑」

【分類】災害時の行動	2022年	【作成者】芝浦工業大学
【No.18】	【二次災害が起こるときの行動】	
内 容		
<p>地震の規模によっては、揺れの後に火災や津波などが発生する場合があります。この火災や津波のことを二次災害というよ。二次災害が発生するかもしれないので、その後の行動が変わるよ。</p> <p>二次災害が発生する危険がある場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一時集合場所に行く ②一時集合場所が危険だったら避難所に避難する ③二次災害の危険がなくなり家が安全だったら家に戻る ④二次災害の危険がまだあるなら避難所で待機する <p>避難所 避難場所 一時的に逃げ込む先</p> <p>家で過ごせなくなったら 一定期間避難生活する場所</p> <p>避難所と避難場所のマークを正しく覚えて、いざという時に役立つ知識を身に付けよう！</p>		
備考		
http://shiga-bousai.jp/dmap/help/hinajo-kigo.pdf 国土地理院 https://www.nhk.or.jp/kochi/bousai/bousaichiban/article/49.html NHKこち防災いちばんHP		



○北斎丸の移動式図書館(2月26日実施)

すみだ新製品開発プロジェクト(通称 SSKP)さんが主催のイベントにお手伝いとして参加させていただきました。当日は「北斎丸」という日常時は移動図書館、災害時は被災者の支援(ソーラーパネル、蓄電池、夜間照明、携帯トイレなど)ができるリアカーに本を載せて移動式図書館として地域の方々に本の貸し出しを行いました。また、けん玉や縄跳びも用意し、小学生に遊んでもらいました。この北斎丸は「フェーズフリー」という日常も災害時も使用できるという考えのもと活用されています。備えない防災という、日常的に使用することで、意識して備えることなく生活の一部として組み込むことの重要性を呼び掛けています。お手伝いとして参加させていただき、地域の人と交流することの大切さを再確認しました。また、どのように本を設置したら興味をもっていただけるのか、どのように呼びかけてたら足をとめてくれるか、と人を呼び寄せることの難しさを実感しました。貴重な体験をさせていただいたので、この経験を次回の私たちのイベントに活かしていきたいです。



成果まとめ、今後の活動計画など

【成果まとめ】

今年度下半期は、自分たち主催の大きなイベントは開催しませんでした。様々なイベントにお手伝いとして参加させていただくことができました。他の団体のイベントに参加することで、参加者ならで



はの気づきをたくさん得ることができたと思います。イベントを客観視することで来年度の自分たちのイベント運営の大きな糧になりました。また、地域の人とのコミュニケーションの大切さを再確認しました。私たちは墨田区を中心に活動していますが、墨田区に住んでいるメンバーは少なく、ほとんどが他の地域に住んでいます。そこで重要になってくるのは、墨田区に実際に住んでいる方の生の声だと思っています。そのことを再確認することができたことは大きな成果となったと思います。

【今後の活動計画】

2023年度は、上記で成果として述べた「地域とのコミュニケーションを深め、ネットワークを広げる」ということをテーマにして取り組んでいこうと考えています。コミュニケーションを今までより深めることで、今までよりも活動を充実させ、それにより交流を深めることで、自分たちのネットワークを広げていきたいと考えています。